

- 薬剤部のご紹介
- 院内助産所・助産師外来を開設しました
- がん患者サロン『ゆらり』を開設します
- 第3回まごころ職員大賞が決定

薬剤部のご紹介



寺田教授

薬剤部 教授 寺田 智祐

薬剤部は2010年2月から新任教授：寺田智祐^{ともひろ}教授を迎えました。

通院されている患者さんで、薬を投与されていない患者さんはほとんどいないと思います。けれども、薬の副作用、飲み合わせ、ジェネリック医薬品のことなど、疑問や不安を覚えながら薬物治療を受けられている方も多いのではないかと思います。薬についてお困りの点があれば、ぜひ薬剤師にご相談下さい。



薬の有効性と安全性

病気の治療や予防、健康の維持などのために、薬は私たちの生活に欠かせないものになっています。そのため、例えば、飲み薬だった薬が貼り薬になったり、1日3回服用しなければならなかった薬が、1日1回の服用でよくなったりと、様々な工夫が施されてきました。

一方、薬は、「両刃の剣」と呼ばれるように、使い方によっては薬にも毒にもなります。薬の使い方が便利になったからといって、副作用が全くなかった訳ではありません。例えば、抗がん剤による治療では、いかに副作用をコントロールしながら治療を継続していくかが、治療効果や生活の質の向上を図る上で大きなポイントとなります。

薬剤部・薬剤師の役割

従来、病院に勤務する薬剤師の主な役割は、調剤室で医師の処方に基づいて医薬品を調剤し、患者さんに交付することでしたが、最近では、ベットサイドでの服薬指導や持参薬のチェック、抗がん剤や高カロリー輸液のミキシング、薬物血中濃度の測定など、質の高い薬物療法の提供に大きな役割を果たしています。さらに、緩和ケアチーム、感染対策チーム、栄養サポートチームなどの多職種からなる医療チームに参画し、薬の専門家としてチーム医療の実践に寄与しています。

また、勉強会の開催等を通して、地域の保険薬局の薬剤師と情報の共有を図り、病院薬剤部と保険薬局の連携、いわゆる「薬薬連携」の強化にも努めています。このように、薬剤部・薬剤師の役割は、以前と比べると多岐にわたるようになってきました。

測り取った量が正しいか、ダブルチェックしています。



抗がん剤のミキシング

メッセージ

私たち薬剤師は、様々な薬剤業務を通して、医療過誤のない安全・安心な医療の提供に努めています。これからも、医師や看護師とは異なる観点、すなわち「薬学的ケアの実践」を通して、患者さんの揺れる心に寄り添えるように、日々努力を続けていきたいと思っています。

院内助産所・助産師外来を開設しました



6A病棟 看護師長（助産師） 中野 育子

これからお産をする方、いずれはお産をしようと考えている方、家族や友人のお産を見守っておられる方、みなさんがさまざまな立場で、現状の出産問題をご心配されていることと思います。

安全で自然なお産を望む妊婦さんにとっては、助産師のケアと緊急時の医療の恩恵が揃っていれば、より安心してお産に臨めるのではないのでしょうか。

そこで、本院では、平成22年3月より、院内助産所・助産師外来を開設いたしました。



中野師長

「院内助産所」「助産師外来」について

「院内助産所」とは...

緊急時の対応ができる病院で、助産師が妊婦さんやその家族の意向を尊重しながら、妊娠から産褥1ヶ月まで、正常・異常を判断して助産ケアを行うシステムです。



「助産師外来」とは...

助産師が医師と役割分担し、妊婦さんやその家族の意向を尊重しながら『健康審査』『保健指導』を行うところです。妊娠中の健診をはじめ、生活や食事のこと、出産育児の準備について、産後はおっぱいのケアや、育児などについて困ったことや、悩みなど相談していただけます。

担当スタッフ
(助産師)



メッセージ

私たちは、お母さんが本来持ち得ている「自らの産む力」と赤ちゃんの「生まれてくる力」を手助けし、安心とともにご満足いただけるような「お産」を提供していきます。

十分な施設・設備の整った大学病院内で、安全で快適な出産をしていただけるようお手伝いしていきたいと思っております。お気軽にご相談ください。

滋賀医科大学医学部附属病院 院内助産所・助産師外来
TEL. 077-548-2674

がん患者サロン『ゆらり』を開設します

患者支援センター 副センター長 多川 晴美



本院は、滋賀県がん診療高度中核拠点病院であるとともに、平成22年度東近江地域がん診療連携拠点病院の指定を受けました。滋賀県におけるがん医療の向上と均てん化を図るとともに、地域住民のみなさんが安心してがん医療を受けられるための仕組みを構築していくことが求められています。

その取組のひとつとして、本院では「がん患者サロン」を開設します。このサロンは、がん患者さん及びご家族同士が集まって、お互いの心の内を語り合い、励まし合い、様々な情報交換をすることで、がんとともに生きる気持ちをよりよい方向へ高めていくことを目的としています。



名称は、スタッフからの公募・投票により『ゆらり』に決定しました。この「ゆらり」には、がん患者さんやご家族に、ゆったりと語り合い、心をゆるめていただける場になるようにとの思いがこもっています。

がん患者サロン『ゆらり』

開設日時	毎月第4金曜日 13:30~15:30
場所	病院3F 看護部応接室
対象	がん患者さんご本人、そのご家族
参加方法	手続きは必要ありません。1回の参加だけでも大歓迎です！

初回は6月25日(金)
13:30~15:30です

気軽にお立ち寄りください！



岡村 理 (医療ソーシャルワーカー) 多川 晴美 (副看護部長) 服部 聖子 (副看護師長)

～がん患者サロン『ゆらり』スタッフ～

また今後は、このサロンから、がん患者サロンをまとめる役割を務めていただく「がん患者ピアサポーター（養成講座を受講されたがん患者ご本人、そのご家族）」の育成と支援も私たちの課題のひとつと考えています。

今後ともご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

第3回「まごころ職員大賞」の 受賞者が決定しました

医療サービス課



「まごころ職員大賞」とは、職員の患者サービス・接遇意識の向上を啓発することを目的に、患者さんやご家族の方々から「対応が良かった」等とご推薦をいただいた職員を表彰する制度です。

第3回は、平成21年4月1日～平成21年12月28日までの期間実施いたしました。ご推薦いただいた職員は数十人にも及びましたが、その中から、第3回「まごころ職員大賞」の受賞者を決定しました。

★ 受賞者

眼科
林 恵利子 看護師



受賞できて大変うれしいです。
これからも笑顔を忘れず頑張りたいと思います。



ペインクリニック科
宇佐美 久代 看護師



これからも笑顔を大切に頑張っていきたいと思います。
ありがとうございました。



平成22年3月17日に行われた受賞式では、柏木病院長から表彰状と記念品が贈られ、ねぎらいの言葉がかけられました。



これからも、心あたたまる医療の提供を目指し、患者サービス・接遇向上に向けた取組を実施してまいります。

滋賀医科大学医学部附属病院 理念

「信頼と満足を追求する全人的医療」

滋賀医大病院ニュース第27号

編集・発行：滋賀医科大学広報委員会
〒520-2192 大津市瀬田月輪町
TEL: 077(548)2012(企画調整室)

過去の滋賀医大病院ニュース(PDF版)はホームページでご覧いただけます。

●理念を実現するための 基本方針

- 患者さん本位の医療を実践します
- 信頼・安心・満足を与える病院を目指します
- あたたかい心で最先端の医療を提供します
- 地域に密着した大学病院を目指します
- 世界に通用する医療人を育成します
- 健全な病院経営を目指します